

## 再評価結果（平成25年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道331号 <small>なかやまかいりょう</small> 中山改良	事業区分	一般国道	事業主体	内閣府 沖縄総合事務局
起終点	白： <small>おきなわけんなんじょう しまぐすくあざし けんぼる</small> 沖縄県南城市玉城字志堅原 至： <small>おきなわけんなんじょう しまぐすくあざなかやま</small> 沖縄県南城市玉城字中山			延長	1.8 km
事業概要					
<p>一般国道331号は、沖縄本島島尻地域の外縁を通過し県都那覇へ至る延長約50kmの主要幹線道路である。中山改良事業は、一般国道331号玉城地区の防災対策及び線形改良を行い、当該地区の観光の発展、交通安全の確保等を目的とした道路事業である。</p>					
H2年度事業化		都市計画決定不要		H6年度用地着手	
H12年度工事着手					
全体事業費	88億円	事業進捗率	約88%	供用済延長	0.9 km
地域の防災面の課題					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当該地域は急峻な地形（県指定の地滑り危険箇所）であるため自然災害に対し脆弱であり災害の危険性が高く、平成20年6月には落石災害により約179日の通行止めが発生している。</li> <li>・ 線形不良箇所が多く、大型車のすれ違いが困難で事故の危険性が危惧される。</li> <li>・ 災害時等の安全・安心な通行（救急搬送）の確保が必要。</li> </ul>					
課題を踏まえた対策・事業内容					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地滑り危険箇所が点在し、土砂崩れ等の災害が発生する地域で確実な通行を確保する道路として、1.8km区間をバイパス整備。</li> <li>・ バイパス整備により、線形不良箇所、大型車すれ違い困難箇所が解消され、災害時等の安全・安心な通行を確保。</li> </ul>					
事業の効果等				費用 <small>(残事業)/(事業全体)</small>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○災害時の迂回解消を含めた走行時間の短縮等 (88億円 (残事業=46億円))</li> <li>○災害等による被害の回避 ・ 現道の線形不良箇所の回避により、迅速・安全な救急搬送に寄与</li> <li>○地域住民の不安感の解消 ・ 走行の快適性 (21億円)</li> </ul>				<p>14 / 118 億円</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事業費： 9.4 / 108 億円</p> <p>維持管理費： 4.8 / 9.9 億円</p> </div>	
関係する地方公共団体等の意見					
<p>当該事業は、現道区間における災害時における代替路、歩道狭小区間の有効幅員の確保、線形不良での大型車両のすれ違い困難箇所の回避等、地域住民の安心・安全の確保や観光振興等に資する重要な事業であると認識している。</p> <p>このため、同事業の対応方針（原案）事業継続に同意するものである。</p>					
事業評価監視委員会の意見					
<p>対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「事業継続」で了承された。</p>					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成18年1月1日に1町3村（旧佐敷町・知念村・玉城村・大里村）の合併が行われた。（現在の南城市）</li> <li>・ 平成12年12月、南城市の斎場御嶽が『琉球王国のグスク及び関連遺産群』として、世界遺産に登録。</li> <li>・ 当該地域は急峻な地形であるため自然災害に対し脆弱であり、過去に幾度も被災しており、平成20年6月には、落石災害により約179日の通行止めが発生している。</li> <li>・ 近年では、平成23年11月に当該地域において土砂流出が発生し、一時通行止めが発生している。</li> </ul>					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
<p>事業進捗率は約88%、用地取得率は約100%（平成24年度末見込み）。</p>					

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等							
平成22年12月に一部区間（0.9km）を供用。完成供用を目指し事業を推進中。							
施設の構造や工法の変更等							
詳細設計の段階で、掘削土量を軽減させるため、橋脚に深礎杭を採用。また、フーチング形状をコンパクトにし、仮設土留め工の規模を縮小。							
対応方針	事業継続						
対応方針決定の理由							
以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は当初から変わらず、事業を継続する必要があるため。							
事業概要図							
<table border="1"> <tr> <td>延長</td> <td>0.9km</td> <td>0.9km</td> </tr> <tr> <td>現状</td> <td>H22.12完成供用</td> <td>・工事推進中 (用地進捗率約100%)</td> </tr> </table>		延長	0.9km	0.9km	現状	H22.12完成供用	・工事推進中 (用地進捗率約100%)
延長	0.9km	0.9km					
現状	H22.12完成供用	・工事推進中 (用地進捗率約100%)					

- ※1 事業の効果に記載している金額は、防災面の効果を完成後50年間の便益額として現在価値化して算出した値であり、試算値を含む。
- ※2 費用に記載している金額は、現在価値化して算出した値。